

# 「いじめ予防研修会」

子どもに自己有用感、自己肯定感を  
チームで早期発見・早期対応を



本校では、いじめ防止対策として「東根小学校いじめ防止基本方針」を策定し、年間計画に基づき、生徒指導の機能を働かせた授業の充実や「心のアンケート」を主とした児童理解の促進、さらなる指導力の向上を目指した教員研修などを進めております。

去る2月18日（水）も、東根市人権擁護委員の大類豊太郎様を講師にお招きし、いじめ予防研修会を開催しました。お話の中で、「いじめをしない、いじめを許さない」「温かく、正義感にあふれ、思いやりのある子ども」を育てるためには、家庭との連携が大切であることをお話しいただきました。家庭において大事にしたい子どもへの関わり方について、お話しいただいた内容（資料）をご紹介します。

## 子は親の鏡

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも、不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、子どもは、引っ込みじあんな子になる

親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも、人をうらやむようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは、「自分は悪い子なんだ」と思うってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる

広い心で接すれば、子どもは、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、がんばり屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを学ぶ

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

